

“夢を語る”

1年生(現10回生)

“夢を深める”

2年生(現9回生)

“夢に翔びたつ”

3年生(現8回生)

中日新聞2013年1月26日(土曜日)

知多翔洋高で校内販売開始

障害者手作り 交流紡ぐパン

知多市知多翔洋高校で25日、市障がい者活動センター(以下、センター)と連携し、市内の知的障害者や発達障害者などから募集したパンの販売が始まった。食への喜びや交流の場を創出する目的で、生徒らは「夢を語る」をテーマに、パン作りを通じて、夢を語り、夢を深め、夢に翔びたつという思いで取り組んでいる。(山口有紀)

センターの中心は、配膳、販売をしていく。販売は、午前9時から午後3時まで。販売場所は、市内の商店街。販売は、午前9時から午後3時まで。販売場所は、市内の商店街。

「一般就労に近づける」
好影響に双方期待
「地域との新たな連携」

初日10分ほどで完売

障害者手作り 交流紡ぐパン



生徒たち(右側)にパンを渡す障害者ら。知多市の知多翔洋高で。

中日新聞2013年8月6日(火曜日)

高校生レストラン 開業

知多、きょうから メニュー日替わり

知多翔洋高生が4日間

知多翔洋高校で「プロ」な栄養バランスを考えた「ドデデザイン」の授業メニューを考案し、毎日15人が6、9日、知多市緑町の市民活動センターで高校生レストランを開業する。三、四人が一つのグループとなり、市民が交代で一日限りのシェフを務める店を持つ。メニューは初日、夏野菜のハンバーグと自家製パン、冷製カボチャポタージュと梅ゼリーを出す。五日午後、センターに高校生四人が集まり、仕込みの作業をした。初日の料理長を務める鷲見彩由菜さん(17)は、名古屋南区に、祖父が喫茶店、父がパン屋で、自身も飲食業への就職を目指す。「多くの人に楽しんでいただけるように手際良く心を込めて調理をしたい」と話した。

一日三十食限定で八百円。要予約。高校内で事前予約を受け付けたため、空きは一日限りのシェフを務める店を持つ。メニューは初日、夏野菜のハンバーグと自家製パン、冷製カボチャポタージュと梅ゼリーを出す。五日午後、センターに高校生四人が集まり、仕込みの作業をした。初日の料理長を務める鷲見彩由菜さん(17)は、名古屋南区に、祖父が喫茶店、父がパン屋で、自身も飲食業への就職を目指す。「多くの人に楽しんでいただけるように手際良く心を込めて調理をしたい」と話した。



調理の前に食材を見る知多翔洋高の生徒ら。知多市市民活動センターで。

中日新聞2013年(平成25年)11月28日(土曜日)

堅守で県大会ベスト8

知多翔洋高サッカー部、過去最高

3年生最後の大会で過去最高のベスト8入りした知多翔洋高サッカー部。同校で

知多翔洋高校(知多市八幡)が、名古屋市内で開かれていた第九十二回全国高校サッカー選手権県大会でベスト8まで勝ち進んだ。十月二十六日の準々決勝で敗れたが、二〇〇五年にサッカー部が発足して以来、最高の成績。この大会を最後に引退する三年生部員八人を含め、勇躍したイレブンに全校や卒業生らが拍手を送っている。

監督の高橋昌大教諭(60)は「三年生が中心となり、堅守でいい成績を残せた」と評す。主将でディフェンダーの三年中野野人君(17)は「練習レブンに全校や卒業生らが拍手を送っている。組織的な守備ができ、いい結果で終わることができた」と笑顔を見せた。

部の今後を副主将の三年花見天平君(17)は「選手権でベスト8に入ったのは、二年生。来年は必ずチームを二部に昇格させてほしい」と夢を託している。(有川正俊)



過去最高の大会で入った知多翔洋高サッカー部。同校で。

祝 全国大会出場

2014年2月

スキー全国大会

生徒会活動として、被災地へクリスマスカードを送る活動をしています。

福島の子どもへクリスマスカード

知多市の知多翔洋高校の生徒らが、福島県に被災した子どもたちにクリスマスカードを送る活動をした。生徒らは「励ましたい」と思い、被災地へクリスマスカードを送る活動をした。生徒らは「励ましたい」と思い、被災地へクリスマスカードを送る活動をした。

被災地では今も、原爆の犠牲者と一緒に苦しんでいる子どもたちが、歌ったり、笑ったりして元気を振り返り、被災地へクリスマスカードを送る活動をした。生徒らは「励ましたい」と思い、被災地へクリスマスカードを送る活動をした。

中日新聞2014年2月28日(金曜日)

知多翔洋高生が卒業制作

夢へ飛翔 思い込め壁掛け

知多翔洋高校(知多市)の3年生15人が卒業制作として、縦1.6m、横1.4mのパッチワークキルトのタペストリー(壁掛け)を作り、卒業式会場の校内の体育館に飾った。布を一つ一つ手で縫い合わせ、飛び立つ鳥を表現した。この作品に見送られ、28日、249人が集立つ。(有川正俊)

被服や食物などを学ぶ「生活文化Ⅱ」を履修した15人が、小島孝子教頭に指導を受け、昨年九月から放課後も利用ブロックを生徒一人が八、布は、生徒が持ち寄った布を縫い合わせた。作品は、縦1.6m、横1.4mのタペストリー(壁掛け)を作り、卒業式会場の校内の体育館に飾った。布を一つ一つ手で縫い合わせ、飛び立つ鳥を表現した。この作品に見送られ、28日、249人が集立つ。

卒業制作の壁掛けを手にする3年生。知多市の知多翔洋高で。

卒業制作の壁掛けを手にする3年生。知多市の知多翔洋高で。

中日新聞2013年12月20日(金曜日)

知多翔洋高 携帯利用の実態調査

7割、寝床でも 3分の2、睡眠不足

知多市の知多翔洋高校の生徒保健委員会は、全校生徒を対象にした携帯電話(以下、携帯)の利用実態調査の結果を発表した。調査の結果、7割の生徒が寝床でも携帯を利用していることが分かった。また、3分の2の生徒が睡眠不足を感じていることが分かった。

調査は十月十一日の朝、生徒一人一人にアンケートを記入してもらった。携帯の利用実態は、寝床でも7割、睡眠不足は3分の2。また、3分の2の生徒が睡眠不足を感じていることが分かった。

調査は十月十一日の朝、生徒一人一人にアンケートを記入してもらった。携帯の利用実態は、寝床でも7割、睡眠不足は3分の2。また、3分の2の生徒が睡眠不足を感じていることが分かった。



携帯電話利用の実態調査結果を保護者や教諭に報告する生徒ら。知多市の知多翔洋高で。

調査は十月十一日の朝、生徒一人一人にアンケートを記入してもらった。携帯の利用実態は、寝床でも7割、睡眠不足は3分の2。また、3分の2の生徒が睡眠不足を感じていることが分かった。

調査は十月十一日の朝、生徒一人一人にアンケートを記入してもらった。携帯の利用実態は、寝床でも7割、睡眠不足は3分の2。また、3分の2の生徒が睡眠不足を感じていることが分かった。

高校生レストラン開業。知多市gobodaと知多翔洋生が連携して期間限定の営業。

生徒会活動として、被災地へクリスマスカードを送る活動をしています。

卒業制作のタペストリーには、みんなの思いが込められていました。